防衛大学校本科第２３期学生及び理工学研究科第１４期学生入校式における学校長式辞（昭和５０年４月５日）

第3代学校長　猪木　正道

本日、防衛大学校本科第２３期学生と理工学研究科第１４期学生の入校式を挙行いたしますに当り、棚辺防衛政務次官[注(1)]、中村自衛艦隊司令官[注(2)]、村木統合幕僚会議事務局長[注(3)]、塚本陸上幕僚副長[注(4)]、宮田海上幕僚副長[注(5)]、平野航空幕僚副長[注(6)]、地元横須賀市からは横山市長[注(7)]、能勢横須賀市議会議長[注(8)]、小佐野商工会議所会頭[注(9)]等多数の来賓並びに父兄各位の御臨席を得ました。これは新入生にとってはもとより、防衛大学校にとりまして無上の光栄であります。職員並びに学生一同に代り、心から御礼申し上げる次第であります。

理工学研究科に入校された諸君は、すでに自衛隊の各種部隊や防衛庁の諸機関において経験を積んでおられ、今回特に選ばれて、本校研究科で高度の科学技術の研究に専念されることになりました。わが国の防衛に関する科学技術は、諸先輩の努力にもかかわらず、まだまだ立ち遅れた点や未開拓の分野を数多く残しています。一国の防衛力が科学技術力にどれほど依存しているかは、日本及び世界の歴史が雄弁に物語っています。世界各国が国防を目的とする科学技術の開発にかけている熱意には、すさまじいものがあるのも無理はありません。陸・海・空各自衛隊の装備を近代化する上で、諸君の若い頭

注(1)　棚辺四郎
注(2)　中村悌次
注(3)　村木杉太郎（陸）
注(4)　塚本勝一
注(5)　宮田敬助
注(6)　平野　晃
注(7)　横山和夫
注(8)　能勢省吾
注(9)　小佐野皆吉

脳に対する期待には絶大なものがあります。理工学研究科在学中における諸君の奮起と精進とを期待します。

次に本科に入校された諸君に対し、防衛に対するわが国民の理解が低調な今日、諸君がわが防衛大学校への入校を決断されたことに対し、心から敬意を表したいのであります。防衛大学校の全職員、全学生は諸君を国防の同志として双手を挙げて歓迎する次第であります。防衛大学校の教育目的は、防衛庁設置法第３３条に明示されていますとおり、「幹部自衛官となるべきものを教育訓練する」ことであります。この目的を達するため、防衛大学校規則第５条は、「広い視野を開き、科学的な思考力を養い、豊かな人間性を培う」という三点を強調した上で、本校の五つの教育方針を明らかにしています。

その第一は性格の形成でありまして「本校の教育訓練、学生舎生活及び校友会活動を通じて、自主自律、積極敢為の気風を養い、幹部自衛官としてその職責を尽しうる性格を育成する」ことであります。

第二に本校の教育課程は大学設置基準に準拠しており、一般教育、理工学または人文社会科学及び防衛学に関する学理及び応用を授けます。世界各国の軍学校は、今なお大学教育を取り入れていないものが大半を占めます。ドイツ連邦共和国も、ようやく一昨年に連邦軍大学を創設しましたが、わが国は同国に２０年先んじているわけです。

第三に本校の訓練課程は、自衛隊の必要とする基礎的な訓練要項について練成します。

第四に学生全員の参加する体育活動と各種の運動競技を奨励して、訓練とともに強健な体力と旺盛な気力を育成します。体力と気力なくしては、知力がいかに優れていましても、肝心な時に任務を遂行できません。諸君が直ちに校友会の運動部に加入して、心身を鍛えることを期待します。

第五番目は、あらゆる機会に陸・海・空各自衛隊の幹部自衛官となるべきものの間に理解協力の気風を育成することです。

前記の教育方針には、２３年前、日本国が独立を回復した際、防衛大学校の創設に当られた諸先輩の苦心がにじみ出ています。広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性を強調し、陸・海・空の理解協力を特筆していること等、日本及び世界の歴史の教訓から学んだすばらしい教育方針といわなければなりません。

近頃「学校は死んだ」ということがいわれ、事実教えるものは自信を喪失して、教育する義務を怠り、学ぶものは学生の立場を忘れ、教育を受ける義務を放棄している学校も少なくありません。わが防衛大学校では、この教育方針の下に、教育するものと教育されるものとが全身全霊をなげうって、与えられた使命を全うしてまいりました。諸君が教室に、実験室に、図書館に、体育館に、運動競技場に、演習場に、そして学生舎に、受動的に教えられるのみならず自ら積極的に学ぶことを祈念して、式辞を終ります。